



実行元年 ～五つの基本政策の実現に向けて～

高知県知事 尾崎 正直

私は、県政運営の実質的な初年度となりました平成二十年度を「足固めの年」と位置付け、県勢浮揚に向けたさまざまな仕込みと仕掛けを行ってきました。平成二十一年度については、その仕込みを存分に生かし、県民の皆様とともに力を合わせ、県勢浮揚に向けて具体的に行動する「実行元年」にしていきたいと考えています。

五つの基本政策に基づく主な取組み

① 経済の活性化（産業振興と雇用の創出）

景気が悪化する中で緊急的に対応すべき雇用対策や中小企業の資金繰り対策とともに、昨年度策定した「高知県産業振興計画」に基づき、産業振興のためのアドバイザーの派遣や、総合補助金（新設）の活用など、本県経済の抜本的な体質強化に取り組みます。

② インフラの充実と有効活用

遅れている本県の社会資本整備を一層進めるとともに、公共交通ネットワークの確保や、観光客が利用しやすい二次交通の実現と、産業振興のための総合物流戦略づくりに取り組みます。

③ 教育の充実と子育て支援

放課後の学びの場の充実など、「学力向上・いじめ問題等対策計画」を着実に推進

します。また、第三子以降の保育料と乳児医療の無料化等の支援や、妊婦健康診査に要する経費の支援など子どもを生み育てやすい環境づくりを進めます。

④ 県民の安全・安心の確保に向けた地域の防犯、防災の基礎づくり

南海地震に備え、学校、保育所、木造住宅などの耐震化を加速するとともに、市町村が行う自主防災組織活動やヘリポートなどの防災施設の整備を支援します。

⑤ 日本一の長寿県づくり

子育てや生活支援、高齢者・障害者福祉サービスなどを総合的に提供する地域の支え合いの拠点（あつたかふれあいセンター）づくりを進めます。

平成二十一年度当初予算の特徴

《攻め、実践型の予算》

未曾有の経済危機の中、県民の皆様的生活を守るために、雇用対策を早急に進めるとともに、あわせて、本県の経済体質の抜本的な強化を図ります。

さらに、学力や体力の低下といった教育危機への対応や、中山間地域が多い本県の実情に即した「高知型福祉」の実現など、思い切った取組みを進めます。

こうした課題に迅速に対応するため、平

成二十一年度予算では、力強くアクセルを踏み込み、経済対策には攻めの姿勢を、教育や福祉にはぬくもりを大切にした積極的な予算編成に努めました。

《安定的な財政運営》

県民の皆様が将来に希望の持てる県づくりを進めるためには、思い切った投資とあわせて、ブレーキを的確に利かせ、将来に渡る安定的な財政運営を確保する必要があります。

このため、歳出面では、職員数の削減や職員給与の抑制、さらには、各事業を実効性の観点から徹底的に精査するとともに、国の交付金を活用し、将来見込まれる事業の前倒しなどにも努めました。また、歳入面では、国の交付金の活用はもとより、臨時財政対策債を含む実質的な地方交付税の増額や県有財産の処分などによって財源を確保しました。

財政調整的な基金を取り崩すなど、依然として財源不足の状況にはありますが、危機的な経済状況であるからこそ、前向きな予算と攻めの組織で経済体質の抜本的な強化に向けて取り組み、県勢の浮揚と中期的な財政収支の均衡に向けて取り組んでいきたいと考えています。